

第8期介護保険事業計画 経過(地域包括ケア会議資料)

令和4年度日南町地域包括支援センター活動状況・モニタリング(年度評価)

1. 日南町の基本方針(スローガン)

「町民みんなで支え合って自分らしく暮らせる日南町(地域共生社会の実現)」

2. 活動の柱

(1) 地域で助け合って暮らせる生活支援体制の整備

① 地域支え愛ネットワーク構築事業の推進

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
7つのまちづくり協議会との協働 各まち協ごとに打合せ等の連携の実施	5まち協	実施	実施	6まち協	6まち協
全戸アンケート実施	3まち協	7つのまち協が 3年間に1回 以上の実施	7つのまち協が 3年間に1回 以上の実施	5まち協	5まち協
33自治会との協働 支え愛マップ作成	28自治会	全自治会	全自治会	14自治会	25自治会
支え愛連絡会	4	20自治会	25自治会	4自治会	2自治会
学習会の開催	8自治会	10自治会	10自治会	2自治会	4自治会
関係機関との連携 総務課(防災担当)、社協との打合せ会	月1回	月1回	月1回	3回/6か月	8回
居宅介護支援事業所(追加)	3回			0回	0回
生山消防署(追加)	1回			0回	0回
県(危機管理課)、県社協との打合せ会	3月コロナで中止	年1回	年1回	1回	1回

- ・令和4年度は、6つのまち協の役員会に出席して年間計画を協議した。支え愛アンケートは5まち協で実施した。
- ・各自治会ごとの支え愛マップや避難行動要援護者名簿の作成については、令和4年度より単町の補助金事業(町社協申請窓口)を新設した。町の補助金事業は、支え愛マップの作成・継続のきっかけとなっている。生山自治会では支え愛事業がきっかけとなり、自主避難所が1か所追加となった(商工会議所3階)。
- ・支え愛マップ、避難行動要援護者名簿の作成は、多里、福栄、阿毘縁、大宮、山上地域で定着してきた。
- ・地域で防災学習会の依頼があり、総務課防災専門員や包括の職員が出向いて学習会を行った。
- ・6月に県(危機管理課)、県・町社協、総務課、福祉保健課との打合せ会を行い、共通理解を図った。
- ・ケアプラン更新時に災害時の避難について記入してもらうことを確認した。
- ・支え愛マップ作成とともに避難行動要支援者名簿(地域)の作成、避難行動計画(個別)の作成ができることを令和4年度の支え愛ネットワーク構築事業の目標にすることを町防災専門員、町社協(生活支援コーディネーター)、福祉保健課・包括で打ち合わせた。

② 地域で支え合える仕組みをつくる

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
見守り連絡会の実施	1(福栄)	3つの	4つの	1(福栄)	2
見守り生活支援サービス実施	0	まち協	まち協	0	0
訪問型サービスB実施	0			0	0
救急医療情報キットの設置	新52件設置			新57件設置	新73件設置
65歳以上一人暮らし世帯		80%	90%	71%	72%
75歳以上高齢者夫婦		90%	100%		
生活支援ボランティア活動	3つのまち協	3つの	4つの		
まちづくり協議会単位で交流会	4会場	まち協	まち協	0	0

- ・見守り生活支援サービス・訪問型サービスBの取り組みに向けて、福栄支え愛ネットワーク役員会で協議し、令和4年度の全戸アンケートの中に生活の困りごと、困りごとに対して支援を受けたい意向や支援を行う意向を入れて実態把握を行った。
- ・福栄見守り連絡会を実施し、まち協会長、事務長、地域で見守り活動を行う民生委員、集落支援員、住民主体通所型サービス運営事業代表者と、防災専門員、包括、社協、介護支援専門員2人の参加があった。計18人で地域の課題等について情報交換や、今後の取り組みの検討を行った。
- ・福栄まちづくり協議会で、デマンドバス試乗・買い物・食事ツアーを実施した。
- ・阿毘縁地域でも、初めての見守り連絡会を実施し、包括、ケアプランセンターあかねの郷が参加した。
- ・多里地域で「食支援、介護予防、社会参加を担うご近所食事会を普及する事業」(国診協モデル事業)に取り組んだ。
- ・支え愛ネットワーク役員会、住民主体の集いに出向き、高齢者の6つの生活課題を紹介し、高齢者の生活課題を踏まえた地域活動となるように浸透を図った。
- ・救急医療情報キットの設置について、地域の防災学習会、出前講座、ふるさとまつりや地域の文化祭展示、町報、各自治会総会など、様々な機会でも周知・啓発を行った。ケアマネによる救急医療情報キットの設置勧奨、更新の支援を行った。

① 高齢者の生きがいのある健康づくり

ア. 生きがい・目標を持てる

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
住民主体通所型サービス(集いの場)での目標づくり実施	0	全会場	全会場	12会場	21/48会場
チェックリスト等を活用した自己評価支援	44/46会場	全会場	全会場	25/41会場	40/48会場

- ・包括と健康対策室職員(保健師、管理栄養士)が、住民主体通所型サービス(以下「集い」という。)に出向き、体力測定の結果返しと目標づくりを行った(大宮、阿毘縁、山上、多里地域)。
- ・チェックリスト等を活用した自己評価支援は、包括職員が出向き、全地域で(40会場)で実施した。

イ. 運動による健康づくり

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
通所型サービスCの利用者数	4人 1人	45人 (実12人)	45人 (実12人)	0人 0人	2人 (実1人)
通所型サービスC終了後の移行先の把握	100%	100%	100%	0%	0%
いきいき百歳体操を実施する「集いの場」の65歳以上参加率	24%	30%	30%	19%	22%
理学療法士等による 体力測定の実施	0	全会場	全会場	21会場 実施	21会場 実施
必要者の個別指導	0	実施	実施		
個別評価の実施					
体操による効果の事業評価	実施	実施	実施	実施	実施
週1回以上の運動習慣がある高齢者の割合(高齢者の質問票)		65%	65%		

・百歳体操実施会場において、日南病院理学療法士による体力測定を初めてリモートで実施した。大宮、阿毘縁、山上、多里地域の21会場で実施。理学療法士との個別相談ができ、参加者からは大変好評であった。

ウ. 食事による健康づくり

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
栄養バランスを考えて食べている人の割合(ニーズ調査)	—	—	70%	—	64%
「食のつながり帳」の配布・改訂を行う	配布	改訂	配布	配布	配布

- ・令和4年度は「食のつながり帳」を一部修正し、配布した。
- ・国診協モデル事業において、フレイル予防として「ご近所食事会」(食支援、介護予防、社会参加を担うご近所食事会を普及する事業)を実施した。福栄まち協、阿毘縁むら協、多里まち協へ提案した。多里まち協のご近所サポーター(民生委員他)、包括(栄養士他)、町社協、日南病院で実施した。

エ. 口腔ケアによる健康づくり

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
かみかみ百歳体操を取り入れている「集いの場」の会場	19会場	10会場	10会場	26会場	26会場
口腔機能指導実施日数	9日	9日	9日	3日	3日
65歳以上の相談者	17人	85人	90人	集計中	25人
定期的に歯科受診(健診を含む)をしている人の割合(ニーズ調査)	—	—	30%	—	—

- ・令和4年度「集い」の実績報告で「かみかみ体操」の実施は26カ所あり、「栄養」の出前講座実施時に口腔機能の内容もあわせて啓発しており、新たに体操を取り入れた団体もある。毎週かみかみ体操に取り組んでいる団体と取り組んでいない団体では、基本チェックリストの口腔機能低下の項目に該当する人数に差がみられた。(取り組んでいる団体では該当者が少ないことがデータからもわかった)今後もかみかみ百歳体操の普及をしていく。
- ・住民検診会場において、口腔機能指導が実施されている。新型コロナウイルス感染予防のため、7月以降は実施を中止した。

オ. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した介護予防の取り組みの推進

(目標値設定なし)

- ・住民主体通所型サービスの補助金を活用し、感染症対策用品の購入を周知した。
- ・7月、11月に感染対策の徹底を図りながら活動を行う周知文章を住民主体通所型サービス等実施団体(48団体)へ通知した。
- ・出前講座の開催については、リモート開催が可能な集いの会場では、新型コロナ感染拡大時期に講師が現地に出向くことが難しい場合に、リモート開催できる体制を整え、リモートによる講座を1団体実施した。

カ. 生活習慣病予防・介護予防の普及啓発

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
「集いの場」での健康相談を実施	0	全団体	全団体	12会場	21会場
出前講座隊	10回	100回	100回	18回	29回
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施	—	—	実施	—	—

- ・感染状況をみながら、山上、阿毘縁、多里地域へ包括職員(保健師ほか)が出向き、体力測定の結果返し、目標づくりとあわせて健康相談を実施することができた。
- ・健康対策室とも協力・連携し、保健師・管理栄養士が大宮地域に出向き、体力測定の結果、目標づくりと健康相談を実施した。・新型コロナ感染対策のため、講師が現地に出向くことが困難な時期に、リモートでの出前講座を行い、コロナ禍においても、介護予防の普及啓発活動を実施することができた。

キ. 事業対象者・要支援者の重度化予防

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
介護予防手帳の配布	100%	100%	100%	100%	100%
サービス未利用者の状況把握	83%	100%	100%	0%	100%

- ・令和3年度末に事業対象者・要支援者の重症化予防を図るためにDVD(日南町通所サービス啓発動画)を作成し、通所型サービスの利用の促進を図るため、令和4年度はケーブルテレビで放映する等啓発に活用をした。

ク. 現役世代・若いうちからのお互い様の意識づくり

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
現役世代も含めた生活支援ボランティア養成	年1回	年1回	年1回	年2回	年2回
65歳未満の生活支援ボランティア登録者	15人	22人	25人	14人	17人
65歳未満の「集いの場」参加者	22人	15人	20人	14人	23人

- ・小学4年生、中学2年生、日野高校生に認知症サポーター養成講座を実施した。小学4年生は高齢者体験やノルデックウォークで高齢者と交流も行き、お互い様の意識づくりを図った。

ケ. みんなとかかわりを持って楽しく暮らす

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
月に1回以上趣味関係のグループに参加している(ニーズ調査)	—	—	10%	—	—
月に1回以上介護予防のための通いの場に参加している(ニーズ調査)	—	—	35%	—	—
あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる(ニーズ調査)	—	—	90%	—	—

② 社会参加・気軽に集える居場所支援

ア. みんなとかかわりを持って楽しく暮らす（社会交流）

（目標値設定なし）

- ・「集い」実施のために包括や生活支援コーディネーターの訪問、感染症対策の啓発チラシの送付などの支援を実施した。
- ・国診協モデル事業において、食支援、介護予防、社会参加を担うご近所食事会を普及する事業を多里地域で実施した。

イ. 気軽にボランティアに参加できる

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
生活支援ボランティア養成	年1回 37人	年1回 10人	年1回 10人	年2回予定	年2回 7人
生活支援ボランティア登録者	93人	105人	110人	100人	108人
生活支援ボランティア 30時間以上活動者	11人	20人	20人		19人
生活支援ボランティア スキルアップ研修会	年1回 (34人)	年1回	年1回	年2回予定	年2回

- ・生活支援ボランティア講座(新規養成)は、昨年までに全地域でほぼ2回ずつ講座を行った。
- ・令和4年度は「日南病院60周年シンポジウム」と「認知症啓発映画上映会」を生活支援ボランティア講座とスキルアップ講座の代替えとして実施した。登録者100人、未修了者68人に個人通知を行い、参加への周知を図った。
- ・4回以上講座に参加した人へ生活支援ボランティア登録を可能とした。

③ 保健・医療など多方面と連携した介護予防

ア. 専門職と連携した介護予防・重症化予防

- ・在宅支援会議で、退院後の生活状況、サービス利用中断者の様子の把握に努めて重症化予防につなげた。

イ. 服薬支援

- ・在宅支援会議で服薬支援の必要な人への対応の情報共有は継続して行っている。
- ・支え愛ネットワーク活動やご近所サポーター養成講座で高齢者の生活課題を紹介し、服薬が正しくできないことが体調不良を引き起こし、家での生活の継続が難しくなるきっかけとなっていることを周知した。

④ 生活を支える体制整備（介護予防・日常生活支援総合事業）

ア. 地縁組織や関係団体と連携した見守りがある安心できる地域づくり

- ・支え愛ネットワーク活動や住民主体の集いに出向き、高齢者の生活課題を紹介し、離れて暮らす家族への支援(パンフレット)の紹介で、見守りなど実施しているサービスや関係者を紹介している。

生活支援コーディネーターとの連携

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
生活支援コーディネーター打合せ会	月1回	月1回	月1回	3回/6か月	月1回

イ. 外出支援の開発

・生活支援・介護予防体制整備推進協議会で「移動支援」について協議した。

訪問型サービスD実施事業所

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
訪問型サービスD実施事業者	0	2事業所	2事業所

令和4年度 中間	令和4年度 最終
0	0

ウ. 生活支援・介護予防体制整備推進協議会の実施

- ・令和4年9月「移動支援」について協議体を実施。住民代表26人、関係者12人、計38人の参加。10月から始まる新たなデマンド交通について講話、グループワークを行い、移動支援について理解を深め検討を行った。終了後アンケートでは、92%が新たなデマンド交通について理解できたと回答があった。
- ・協議体終了後、グループワークで出た意見等をまとめて企画課に返し、事業に反映してもらった。
- ・参加者は、自分で出来ることを話し合い、実際にデマンドバスの申請や予約の支援をされた。また、福栄まち協活動では住民より希望者を募り、12月にデマンドバスに乗って買い物や食事会を計画されている。

生活支援・介護予防体制整備推進協議体

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
生活支援・介護予防体制整備推進協議会	0回	1回	1回

令和4年度 中間	令和4年度 最終
1回	1回

(3) 自分や家族が認知症になっても大丈夫だと思える地域づくり【認知症施策の推進】

① 認知症への理解を深める

取 り 組 み の 内 容	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
ア) 認知症サポーターを養成する(累計)	3回 51人	20回 230人 (2,250人)	20回 230人 (2,400人)
・住 民	0回 0人	15回 150人	15回 150人
・町内事業所	未実施	2回 20人	2回 20人
・高校生(日野高校)	1回 2人	1回 10人	1回 10人
・中学生(日南中学校)	1回 22人	1回 30人	1回 30人
・小学生(日南小学校)	1回 27人	1回 20人	1回 20人
イ) 出前講座での啓発	2回	15回	15回
ウ) 地域包括ケアシンポジウムで啓発を行う	映画上映・ミニ講話 1回	1回	1回
エ) 広報にちなんで漫画による啓発を行う	作成0部 掲載1回	作成2部 掲載2回	作成2部 掲載2回
オ) 住民への普及啓発活動を認知症当事者の声を踏まえながら実施する	実施	実施	実施

令和4年度 中間	令和4年度 最終
2回 10人	6回 58人
2回 10人	3回 17人
0回 0人	0回 0人
1回 5人	1回 5人
12月22日予定	1回 16人
1回 20人	1回 20人
1回	0回
1回	映画上映・ミニ講話 1回
作成0部 掲載2回	作成0部 掲載2回
実施	実施

- ・認知症サポーター養成講座については、コロナ禍のため、住民・事業所を対象としての講座は、感染状況を見合わせながら実施した。つどいへの出前講座では、認知症について6月16日、7月7日、2月22日の3回、17人のサポーター養成講座を行った。日野高校福祉コースでは7月4日に開催し、受講者は5名、日野町のボランティア1名の参加があった。小学校4年生では、10月4日に2時限を担当し、中学校2年生では、12月22日に1時限を担当し実施した。
- ・認知症啓発映画上映会『地域で支えよう大切な人「ぼけますからよろしくおねがいます～おかえりお母さん～」上映&信友監督ミニ講演会』を、12月17日(土)13:30～16:10開催した。町内外からの来場もあり、142人の参加があった。認知症や終末期介護等について、ともに考えるよい機会となった。
- ・広報にちなん9月号に、認知症啓発月間として特集記事を掲載、認知症サポート医である高見医師に寄稿をして頂いた。認知症啓発漫画を4月号、10月号の2回掲載した。
- ・9月のアルツハイマー月間にちなみ、日南町図書館入り口に認知症啓発コーナーを設け、関係図書や認知症ケアパスの展示を行った。
- ・10月29日、30日開催のふる里まつりで、認知症の啓発展示、映画上映会の周知を行った。

② 認知症の予防、早期発見・早期対応を図る

取 り 組 み の 内 容	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
ア) 認知症についての相談窓口を周知する ・住民の認知度 ・関係者の認知度	— 75%	— 90%	(ニーズ調査) 60% 90%	ニーズ調査を 年度内実施予定	ニーズ調査 実施 —
イ) 認知症についての相談に対応する(包括)	集計中	実70人	実70人	集計中	実46人
ウ) 物忘れタッチパネルを実施する ・住民検診会場 ・出前講座	計120人 8回 20人 0回 0人	120人 9回 100人 1回 20人	120人 9回 100人 1回 20人	19人 3回 19人 0回 0人	19人 3回 19人 0回 0人
エ) 基本チェックリストの認知症項目から把握する ・つどいの場、後期高齢者の検診 ・ニーズ調査	実施 110人/353人中 58人/160人中 —	実施 720人 200人 —	実施 720人 200人 1,300人	実施予定	実施 未把握 未把握 141人/336人中 43人/136人中 —
オ) つどいの参加率	24%	30%	30%	未把握	22%
カ) 週1回以上の運動習慣がある高齢者の割合	後期高齢者検診受診者160人55%	65%	65%	未把握	後期高齢者検診受診者136人45%
キ) 専門医による個別相談会を行う	4回 実3人 延3人	年 5回 実10人 延10人	年 5回 実10人 延10人	3回 実5人 延5人	5回 実7人 延7人
ク) 認知症初期集中支援チーム員会議を行う ・医療・介護サービスにつながった人	5回 100%	年5回 100%	年5回 100%	3回 100%	5回 100%

- ・認知症相談窓口の周知を心がけている。住民の相談窓口周知度評価はR4年度実施予定の高齢者 ニーズ調査結果により行う(現在集計中)。関係者の相談窓口周知度調査をR3年度末に行い集計した。認知症の総合相談窓口が地域包括支援センターであることの周知度は、目標90%に対して74%だった。集計結果報告書と合わせて認知症ケアパスを関係者に配布し、相談窓口周知の機会とした。
- ・認知症に関する相談件数は、実46件/延173件であった。
- ・もの忘れタッチパネルを住民検診会場で6月9、10、11日に計3回19人に実施した。新型コロナウイルス感染予防のため、7月以降は中止とした。
- ・基本チェックリストからの認知症がある人の把握は、高齢者ニーズ調査で実施(現在集計中)。
- ・住民主体のつどいは、認知症予防に効果的である。コロナ禍であるが中止要請することなく実施された。

③ 認知症地域支援・ケアの向上を推進する

取 り 組 み の 内 容	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和4年度
				中間	最終
ア) 認知症初期集中支援チーム員の研修を行う	2回	年1回	年1回	2回	1回
イ) 認知症作業部会を開催する(日南病院、日南福祉会、地域包括支援センター)	13回	年12回	年12回	7回	12回
ウ) 関係職員へ認知症の研修を行う	1回	年2回	年2回	0回	1回
・4団体向けの認知症研修に意思決定支援に関するプログラムを導入する	1回	1回	1回	0回	1回

- ・認知症作業部会で、7月7日認知症体験VR研修を行い、8人出席。体験を通して、認知症当事者への理解を深め、より良いケアにつなげることを目的とし、令和5年度に住民、関係職員を対象とした研修会を企画し、予算化をした。
- ・9月22日第1回認知症地域支援体制推進全国セミナーをオンライン受講した。1人受講。
- ・10月1日認知症初期集中支援チーム員研修をオンライン受講した。1人受講。
- ・10月30日意思決定支援に関する研修をオンライン受講を予定していたが、参加要件を満たせず、受講できなかった。
- ・認知症施策作業部会を月1回開催している。関係者の相談窓口周知度アンケートに記載があった課題(63人84件)への対応策について、協議をした。啓発については、町報やケアパスを活用した啓発など具体的な取り組みができ、当事者の理解を深めるための研修を次年度に実施予定で計画することができた。
- ・関係機関を対象とした研修として、2月2日「本人の意思を尊重した意思決定のための研修会」を認知症施策作業部会で企画し、講師を日南病院 谷口尚平医師に依頼し、開催した。57人の参加があった。感染対策のため、開催方法は集合型とオンラインの2方法とした。

④ 認知症の人の支援体制を整える

取 り 組 み の 内 容	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
ア)認知症ケアパスを活用する	3件	70件	70件	335件	357件
イ)家族介護者交流会を開催する	7回 実5人 延15人	年12回 実10人 延35人	年12回 実10人 延35人	6回 実4人 延16人	年12回 実6人 延31人
ウ)認知症カフェ～ねえ・きいて～を 開催する ・中央と地域で開催する ・当事者の参加を促す(再掲)	【開催場所】 2か所 7回、7回 14人、11人 23人、54人 (実1人) (延7人)	【開催場所】 3か所 年36回 実10人 延84人 (実 1人) (延12人)	【開催場所】 3か所 年36回 実10人 延84人 (実 1人) (延12人)	2か所 6回、6回 実18人、12人 延24人、43人 (実3人) (延3人)	【開催場所】 2か所 12回、12回 28人、12人 50人、77人 (実1人) (延6人)
エ)高齢者等見守りネットワーク事前 登録制度を普及する	4人 (新1人)	3人 (新1人)	4人 (新1人)	現在5人 (新3人)	8人 (新4人)
オ)地域でのネットワーク活動で啓発 する(合計)	0回 0人	2回 20人	2回 20人	0回 0人	0回 0人
・まちづくり協議会と協働して研修会 を行う	ご近所サポーター 71人	1回 10人	1回 10人	0回 0人	0回 0人
・自治会と協働して研修会を行う	0回 0人	1回 10人	1回 10人	0回 0人	0回 0人
・つどいと協働してチームオレンジの 活動につなげる	未実施	活動を実施	活動を実施	未実施	未実施
カ)成年後見制度の利用を促進する					
・啓発実施回数	0回	1回	1回	0回	0回
・成年後見制度研修受講者数	0人	20人	20人	0人	0人
・市民後見人養成講座受講者数	1人	3人	3人	0人	0人

・認知症ケアパスは、自立支援検討会、個別相談、訪問などで、使用するように心がけた。
 ・家族介護者の交流会は、「認知症の人と家族の会」相談員、認知症サポーターの協力を得て、月に1回開催した。コロナ禍であるが、感染対策をして中止せずに開催できた。今後も参加人数は少ないが介護経験者に相談ができる場として継続して開催していく。
 ・認知症カフェとして「オレンジカフェ～ねえ・きいて～」をパセオ内無料休憩所で、「多里にこにこカフェ」を多里桜ヶ瀬会館でそれぞれ月1回開催した。コロナ禍であるため、感染対策を講じて開催した。参加者が少ない日もあるが、気軽に相談できる場として今後も継続していきたい。次年度に向けては「オレンジカフェ～ねえ・きいて～」は休止とした。「多里にこにこカフェ」は、認知症サポーターであり民生児童委員でもある2名の参加者を中心として、多里まちづくり協議会支え愛部の事業に位置づけ、自主運営の方向で継続していくこととなった。

(4) 人生の最期まで生きがいと尊厳を持って暮らせる体制整備と意識啓発

① 成年後見制度等の利用を促進するための周知・啓発を行う

・コロナウイルスの感染状況等で現在のところ周知・啓発ができていない。

② 権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりと担い手の確保に努める

・西部圏域で開催される市民後見人養成講座への参加者について日南町社会福祉協議会と情報共有し、担い手確保に努めている。

③ 利用者に寄り添った成年後見制度の運用を進める

・財産管理や身上監護が必要な利用者に対し、制度利用に必要な情報提供等を行っている。

④ 高齢者虐待の防止及び早期発見を図り支援につなげる

・民生児童委員、在宅支援会議、町内の事業所からの情報を得て早期発見と早期終結に努めている。

⑤ 人生の最期まで自分らしく暮らす意識を持ち、周りの人がそれを応援する意識をもつための啓発を行う

人生の最期まで生きがいと尊厳を持って暮らせる体制整備と意識啓発

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
成年後見制度研修会の開催	0回	1回	1回	0回	1回
シンポジウムの開催	0回	1回	1回	0回	0回
出前講座隊による啓発	0回	12回	12回	0回	0回
市民後見人養成講座受講者数	1人	3人	3人	0人	0人
ACP研修会の開催	1回	1回	1回	0回	0回

(5) 地域で暮らし続けることができるための、在宅医療・介護連携拡充と基盤整備
(地域包括ケアシステムの充実)

① 地域における在宅医療・介護の関係機関の連携拡充

地域ケア会議開催

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
在宅支援会議の開催	50回	51回	51回	25回	50回
企画会議の開催	12回	12回	12回	6回	13回
地域包括ケア会議の開催	6回	10回	10回	4回	6回
認知症作業部会	13回	12回	12回	6回	12回
自立支援検討会					
事例検討	12回	12回	12回	8回	15回
研修会	2回	3回	3回	1回	3回
事業評価	1回(書面)	1回	1回	0回	1回

地域における在宅医療・介護の関係機関の連携拡充

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度	令和4年度 中間	令和4年度 最終
つくほ連絡会の開催	5回	6回	6回	2回	4回
入退院連絡票の作成(率)	100%	100%	100%	100%	100%
パツと見えネットの活用(件数:実人数)	22件	60件	65件	30件	32件
町内居宅介護支援事業所連絡会	1回	2回	2回	1回	1回
日野郡地域リハビリテーション連絡協議会及び介護支援専門員等意見交換会	0回	1回	1回	0回	0回
西部圏域在宅医療・介護連携に係る意見交換会	12回	12回	12回	5回	11回
医療介護連携体制の構築に係る調整会議(西部福祉保健局主催)	0回	1回	1回	0回	0回

・在宅支援会議はリモート会議開催。地域包括ケア会議、企画会議、認知症作業部会も新型コロナウイルス感染拡大時期はリモート会議を取り入れて通年開催。

② 地域住民（地域活動）と医療・介護・福祉専門職の連携

地域住民（地域活動）と医療・介護・福祉専門職の連携

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
地域包括ケアシンポジウムの開催回数	1回(ミニシンポ)	1回	1回

令和4年度 中間	令和4年度 最終
0回	0回

・避難行動への支援について介護支援専門員のケアプランに掲載していることを地域の防災活動周知していく。

③ 高齢者向け住まいの整備

・特別養護老人ホームあかねの郷内に(あかねの郷高齢者生活支援サービス)あかね荘(宿泊施設19室)が開所された。冬期間入居希望に対応している。
・令和4年度の冬季入所の相談対応は53件。

④ 必要な医療・介護サービスが利用できる体制整備

必要な医療・介護サービスが利用できる体制整備

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
介護福祉人材育成奨学金制度の利用(件数)	0件	1件	1件
介護福祉人材就職支度金貸与事業の利用(件数)	0件	1件	1件

令和4年度 中間	令和4年度 最終
0件	0件
廃止	廃止

・介護福祉人材育成奨学金貸与事業、介護福祉人材就職支度金貸与事業を実施しているが、応募が少ない。

家族介護教室

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
家族介護教室開催回数	0回	3回	3回

令和4年度 中間	令和4年度 最終
0回	0回

家族介護者交流事業

	R3. 実績	令和4年度	令和5年度
家族介護者交流事業開催回数	0回	1回	1回

令和4年度 中間	令和4年度 最終
0回	0回

・家族介護者教室、家族介護者交流事業を日南福祉会に委託しているが、新型コロナウイルス感染症対策により開催が難しい状況が続いている。